



吉住はるお 区政レポート 平成29年新春号

人にやさしいまちづくりを！

皆様には、お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

皆様のおかげさまで、私も新宿区議会議員として10年目を迎えようとしています。

ますます精進してまいりますので、今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年第3回定例会決算特別委員会
総括質疑

新宿区都市マスター・プラン（都市計画）の見直しについて

私は、ここ数年、高齢者の方や車いす利用者の方などから「歩道の切り下げが急だととても通行しづらい。」「道路上のちょっとした障害物でつまずき、転びそうになった。」「狭い道なのに、車が多く進入ってきて怖い。」などのお話を伺う機会がとても増えているように感じています。

私は、今後の新宿区のまちづくりにおいて、より一層力を入れるべき課題として「人に



「道路のバリアフリー化と無電柱化整備」について

これまでも新宿区では、交通バリアフリー基本構想に基づいた重点地区と2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた駅周辺の整備、また、区内全域における歩行空間

やさしいまちづくり」があると考えています。当然、これまでの新宿区の都市計画においても多く取り上げられている課題ですが、急速に進む高齢社会の進展やオリンピック・パラリンピックの開催決定を受けて、その重要度はますます高まっていると思います。



沿道の歩道状空地の整備の例

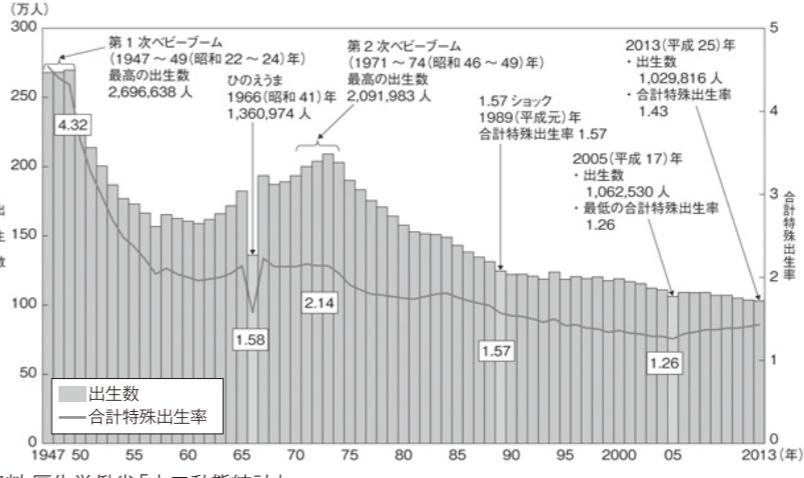


国では、平成2年のいわゆる1・57ショックを受け、平成6年のエンゼルプランの策定に始まり、これまで様々な計画や法令を整え、多くの予算をかけて少子化対策に取り組んできました。

そして、その取り組みの中で、常に重点的に取り組んできたものに、新宿区も積極的に取り組む保育サービスの充実、待機児童解消があります。厚生労働省が本年6月5日発表した平成26年人口動態統計によると、合計特殊出生率は1・42となり、9年ぶりに低下したとのことです。少子化対策としては、これまで

の国や地方自治体の取り組みが十分に効果を出しているとは言えない状況だと思います。また、「東京プラスクホール化」という言葉も耳にしますが、全国で最も保育園等の数が多く、23区が競って整備を推進している東京都の合計特殊出生率が全国でもっとも低いというのが現実です。

国も地方自治体も今までの取り組もつとも低いということが現実です。東京都の合計特殊出生率が全国でもっとも低いというのが現実です。



〒160-8484
新宿区歌舞伎町1-4-1
自由民主党新宿区議会議員団
(発行人 吉住はるお)

事務所
〒162-0838
東京都新宿区細工町1-8
ヴィラK2 302号室
TEL: 03-3260-3104
FAX: 03-3260-3107
メール:
yoshizumi-haruo@nifty.com

在宅子育て家庭の支援充実も！

みに固執するのではなく、違った視点でも少子化対策に取り組む必要があるのではないか。少子化の主な要因としては、晚婚化と未婚化があ

ることにより、より良い子育て支援、少子化対策になるのではないでしょう。

これまで新宿区は、待機児童解消に向けた取り組みについて、23区の中でもかなり力を入れて取り組んできました。また、今後も積極的に継続していくわけですが、保育所などの運営費には、区の一般財源も多く投入されています。

国立社会保障・人口問題研究所が女性に対して行った調査によると、「子事を持たず育児に専念した方が良い」の賛成割合は、減少傾向にはあ

るもの平成25年に実施された最新の第5回調査においても全体で77.3%あり、最も年齢の低い「29歳以下」にあっても63.5%が賛成していることです。

私は、あえて男女を問わずと言わせて頂きますが、家庭を持ち、自分の子供を持つのであれば、特に0歳から2歳くらいまでの乳幼児期は出来うことなら在宅で子育てをしたいと思う方もかなりの割合でいるのではないかと考えています。

新宿区が、乳幼児期における在宅子育て家庭をより積極的に支援する

感覚です。少子化対策の日本社会全体の課題としては、育児休業の延長や子育てをした人々の職場復帰を応援する等、様々な課題がほかにもあります。しかし、より積極的に乳幼児期の在宅子育て支援にも力を入れて行くことが、ひいては、待機児童減少にもつながるのではないかでしょうか。

遮熱透水性舗装

新宿区では、道路管理の一環として地下水の涵養や道路冠水対策を目的とした透水性舗装を実施してきましたが、これに加えて、熱を反射させる遮熱機能を合わせた「遮熱透水性舗装」を行っています。

遮熱透水性舗装とは

アスファルト舗装の表面に、熱を反射する遮熱コート材を塗布して路面の温度上昇を抑制します。

一般的の舗装と透水性舗装

一般の舗装

透水性舗装

新宿区ホームページより



吉住はるおプロフィール

昭和48年4月、新宿区生まれ、京北高校卒業
日本大学文理学部社会学科卒業
元防衛庁長官 中西啓介秘書
参議院議員 世耕弘成秘書
衆議院議員 与謝野 馨秘書
平成23年4月
自民党公認 新宿区議会議員選挙3期当選
現在
議会運営委員会委員長
福祉健康委員会委員
自治・議会行財政改革特別委員会委員
自由民主党新宿支部政務調査会長



(写真:ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン・新宿区都市マスタークリーン実績報告書より)

環境にやさしい道づくりについて

そこで、これまでの区の取り組み状況と成果についてお伺いいたします。また、歩行者優先の道路空間の形成を進めていく上での課題などあればお答え下さい。

環境にやさしい道づくりについて

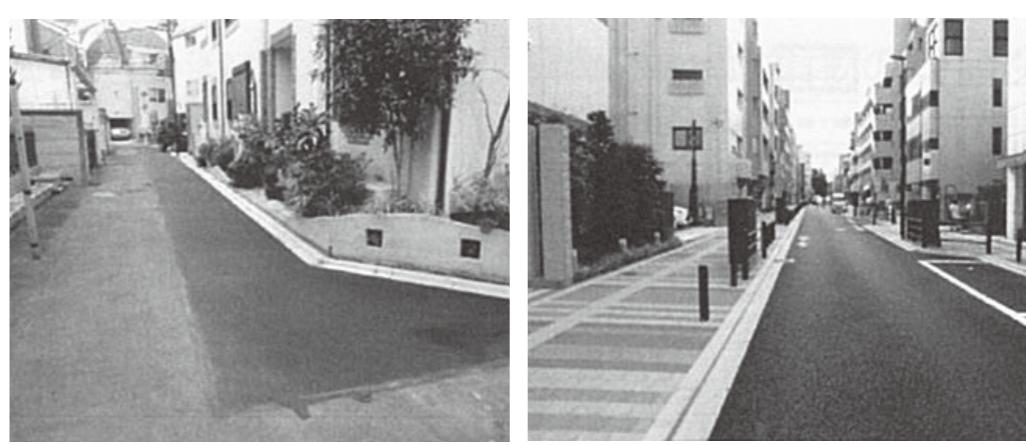
そこで、これまでの区の取り組み状況と成果についてお伺いいたします。また、歩行者優先の道路空間の形成を進めていく上での課題などあればお答え下さい。

ランド現象の抑制をはかるために路面温度の低減効果がある遮熱透水性舗装を実施しています。最近では、国や都においても、東京五輪に向けた暑さ対策としてマラソンコースを中心遮熱性舗装をより積極的に推進していくことが、マスコミ等で報道されています。東京都においては五輪までのロードマップを作成し、昨年度から、

より積極的に遮熱性舗装を導入していくことがあります。年々温暖化が進んでいると感じられる昨今ですが、暑さ厳しい夏場において子供から高齢者まで安心して外出できるようになると、また、室内の温度を下げ、過度にエアコン等に頼らない生活を過ごすためにも、国道や都道と併せて、区民に一番身近生活道路である区道

の路面温度を下げていくことは、重要な取り組みだと考えます。

そこで、お伺い致しますが、これまでの区の取り組み状況や成果はどういうであったか、そして、今後取り組んでいく上で課題があればお答え下さい。



細街路の拡幅整備の例

無電柱化整備の例

りなど、都道とのネットワーク等による整備効果を踏まえながら主要な区道で、無電柱化を推進してきたことは承知していますが、私は、今後、国や都に負けないくらい積極的に無電柱化を推進して頂きたいと考えます。そこで、改めてこれまでの区の取り組み状況と成果についてお伺い致します。

また、東京都では、今後、新たな都市計画道路において、無電柱化していくこということです。例えば、大久保通りや外苑東通り等の都道で拡幅事業が、現在進行中ですが、区道の接続等で勾配が急になつたりして、通行しづらいような状況にならないようにできる限り配慮して頂きたいと思います。その辺につ

いては、既に東京都とも意思疎通して頂いていると思いますが、どのような状況であるか教えて頂けますか？

歩行者優先の道づくりについて

私は、高齢化の進展に伴

い、いわゆる生活道路においての歩行者の安全性に関するご意見をここ数年、お伺いすることが増えているように感じています。

このことは、新宿区のユニバーサルデザインガイドラインに詳しく記載があり、とても参考になりますので、以下、その一部を引用させて頂きますが、「人の通行が優先されるべき幹線道路に囲まれた住宅街や学校周辺などの地域においては、通行する車を制限することにより、住環境の改善を図り、歩行者が安心して歩ける生活空間を確保することが必要です。通り抜け車両の制限や車道部分に起伏を設けて車両のスピードを抑制する対策、交差点部のカラー舗装や通行部分を部分的に狭めるなどの



通行部分を部分的に狭めることや生活道路の自動車の速度を規制することで、生活道路における歩行者の安全性を高めている

安全対策、舗装や車両の進入を阻止する車止めによる歩行空間の視覚的分離などの対策により歩行者の安全性を高めることが必要です。」とあります。まさしくその通りだと思います。今後ともこのようないくつかの取り組みを積極的に行って頂きたいと考えます。